

【ステージⅠ（育成フェーズ）】

（課題提案者の要件等）

Q22 複数の大学等が連名で応募できるか。

A22 研究チームに複数の大学等が参加することは可能ですが、連名での応募はできません。研究責任者 1 名を選んで応募してください。

Q23 応募に年齢制限があるか。若手研究者でないと応募できないのか。

A23 若手研究者については公募年度の 4 月 1 日時点において 40 歳未満の研究者を想定していますが、応募に年齢制限は設けておりません。

Q24 選考において若手研究者の採択枠もしくは優遇があるのか。

A24 採択枠は設けておりません。選考では、育成フェーズ終了後も実用化に向けた継続的な研究開発が期待できるかも含め、総合的に判断いたします。

（育成フェーズへの応募について）

Q25 技術シーズとして特許（出願中のものを含む）がないと応募できないのか。

A25 応募には大学等の研究成果が必要ですが、特許（出願中のものを含む）に限りません。論文や、その技術シーズを創出した際に受けていた資金制度に提出した研究終了報告書など、成果を示す資料を添付いただき、応募してください。

Q26 既に企業と共同研究を進めている技術シーズは応募できないのか。

A26 既に共同研究を進めている場合は本格フェーズへの応募をご検討ください。ただし、他の企業や、別の製品・サービスへの展開を目的とした提案等は応募可能です。

Q27 共同研究企業の探索ではなく、初めから起業を目指した課題提案を応募してよいか。

A27 起業を目指した課題提案は、大学発新産業創出基金事業への応募をご検討ください。

[\(https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/\)](https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/)

ただし、育成フェーズにおいて、共同研究企業を探索した結果として、起業を選択することを否定するものではありません。

(研究開発費等)

Q28 共同研究を進めている企業や、共同研究企業の候補に対してJST委託研究開発費を支出できるか。

A28 企業にJST委託研究開発費を支出することはできません。また、大学等から研究開発の一部を企業等に再委託することもできません。研究要素を含まない測定・評価等の外注は可能です。

(評価)

Q29 研究期間が終了した時に達成されていなければならないことは何か。

A29 技術シーズの技術移転に向けて、研究開発を推進するとともに技術シーズの知財化や企業二重の探索など、本格フェーズへの移行が可能となる産学共同体制を構築し、実用化に向けた研究開発を継続できる計画を作成することです。

ただし、共同研究企業を探索した結果、起業やライセンスアウトを目指す等、上記が未達成であっても終了後も実用化を進める場合には評価されます。

(研究期間終了後の開発研究)

Q30 研究開発で得られた成果の展開について、JSTはどのように考えているか。

A30 本格フェーズにおいて、引き続き実用化に向けた研究開発を進めていただくことを期待します。JSTの制度を活用していただき、製品化や事業化に向けた取組を進めていただくことができます。

Q31 育成フェーズの実施により共同研究企業を得た場合、本格フェーズへ移行できるのか。

A31 育成フェーズから本格フェーズの移行においては、ステージゲート評価を設けています。本格フェーズへの移行を希望し、ステージゲート評価を通過した課題は、切れ目なく本格フェーズへ移行することが可能です。詳しくは、公募要領の「3.5 ステージゲート評価」をご参照ください。